

相模湾西部・南西部海底地形図*

海上保安庁水路部

海上保安庁水路部では、相模湾においてナローマルチビーム測深機による精密海底地形調査を実施してきたが、伊豆半島東方沖の海底火山群を含む海域の海底地形図（原図縮尺5万分の1）が完成したので報告する。

なお、この調査は科学技術振興調査費によるものである。また、陸部は国土地理院の資料によった。海岸付近の極浅海域及び1,200 m以深の深海域以外の海域は、浅海ナローマルチビーム測深機（ハイドロチャート）によって海底を100%カバーするように調査されている。

第1図の「相模湾西部」は平塚沖から伊東沖までの海域を、第2図の「相模湾南西部」は真鶴沖から稲取沖までの海域をカバーし、手石海丘及び初島はいずれの図にも含まれている。

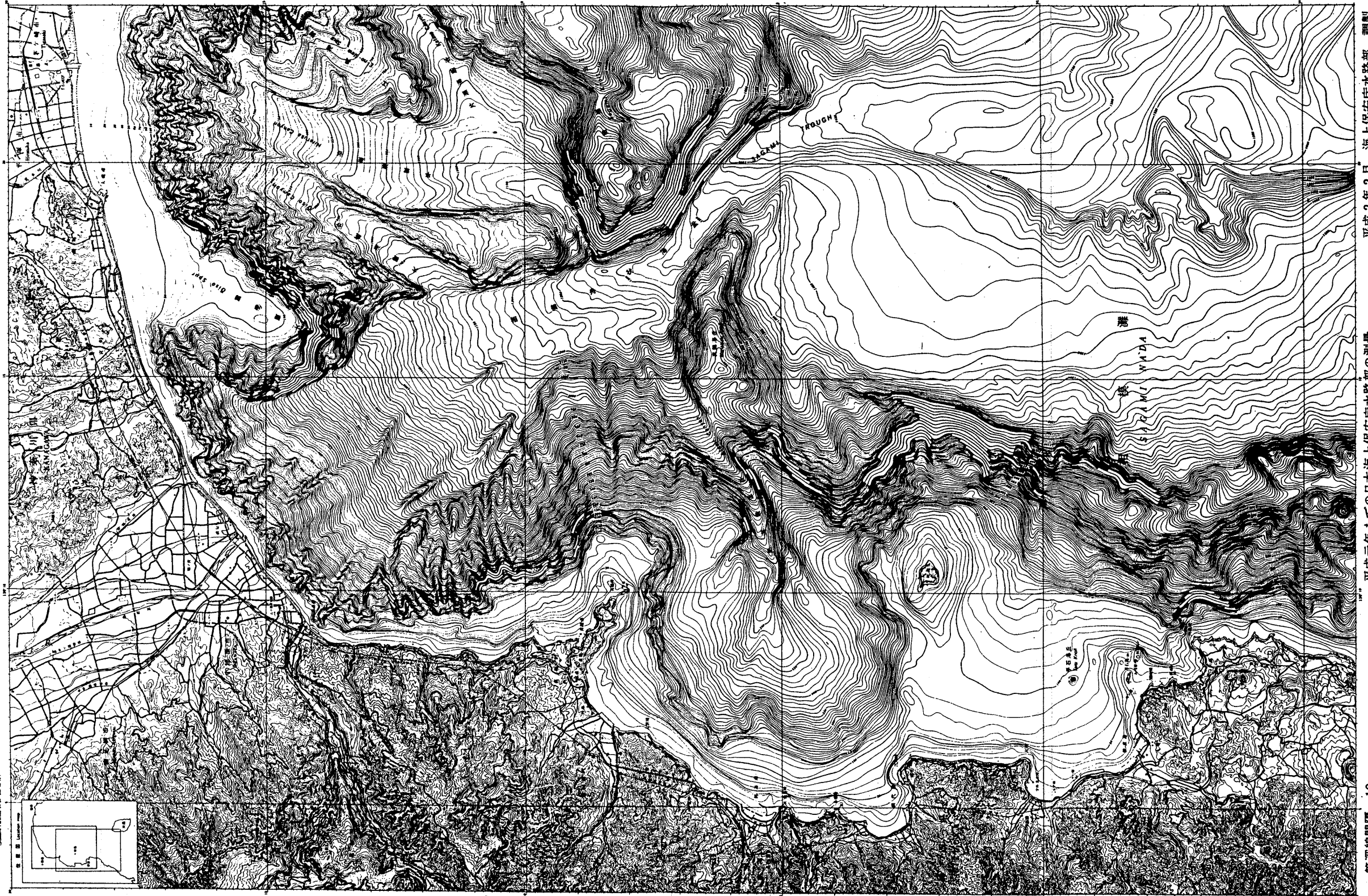
伊東沖の手石海丘から東伊豆沖の海丘群、伊豆大島に至る海底火山群は、第2図の「相模湾南西部」の範囲にはいる。この地形図にみられる海丘群の特徴は次のとおりである。

1. 海丘群は伊豆東部と伊豆大島間の海域に分布し、手石海丘はほぼその北縁にあたる。
2. 熱川海丘、赤沢海丘等、円錐形の海丘が多い。しかし、伊豆大島の北西に位置する乳ヶ崎海丘、西乳ヶ崎海丘付近をはじめ、伊豆大島に近い海域の海丘では北西-南東方向の尾根が顕著である。
3. 海丘のなかには、西乳ヶ崎海丘、赤沢海丘、熱川海丘、矢筈出しなど大きな山体を持つものが多い。大室山等、陸上の火山の山体と比較するとその規模の大きさがよくわかる。

* Received Mar. 2, 1990

相模湾西部海底地形図

WESTERN PART OF SAGAMI WAN
BATHYMETRIC CHART



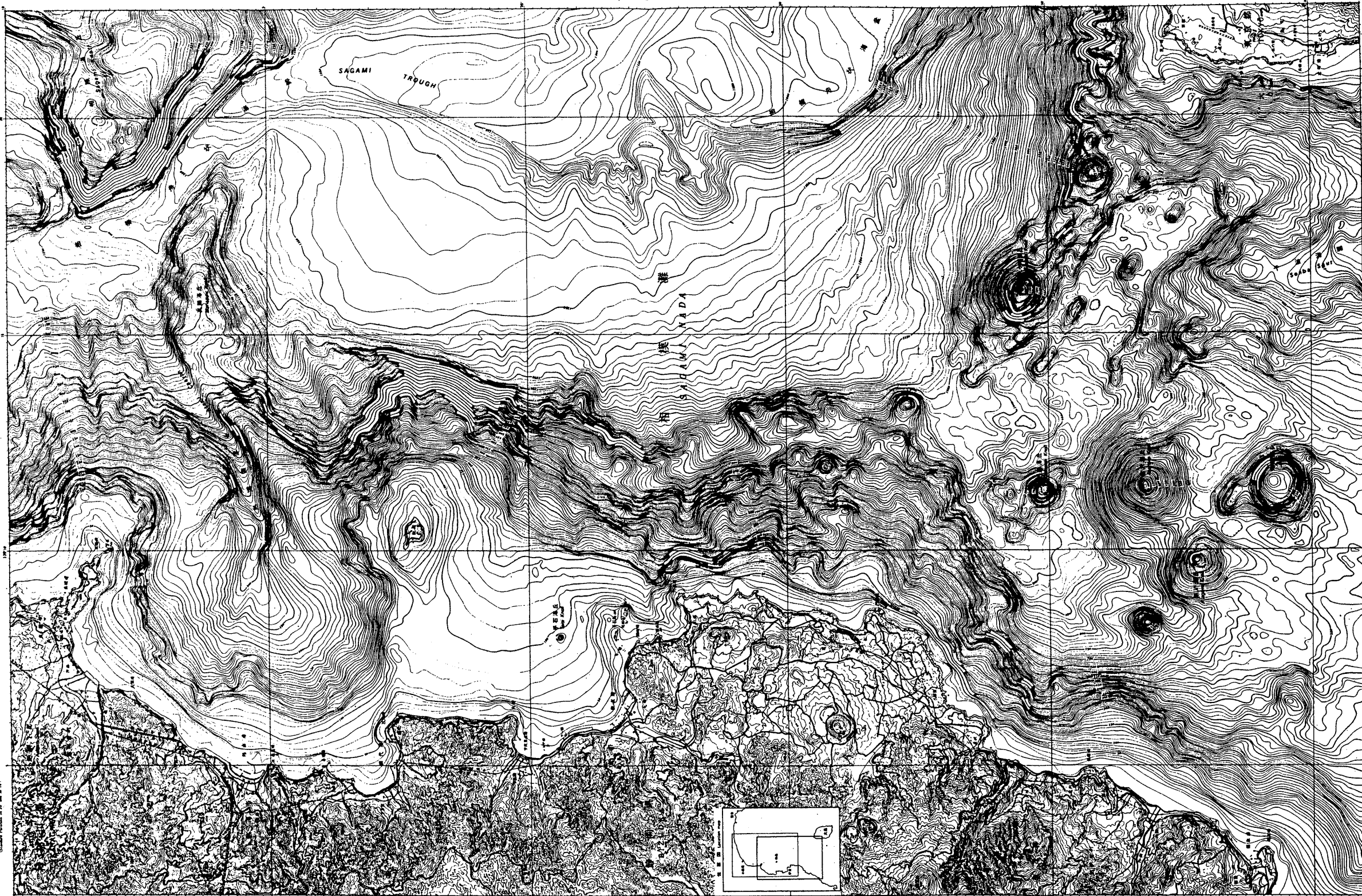
第1図 相模湾西部海底地形

Fig.1 Bathymetric chart of the western part of Sagami Bay.

每深線間隔...10m
等高線間隔...20m

平成元年までの日本海上保安庁水路部の測量
陸部は国土地理院の資料による

平成2年2月 海上保安庁水路部 調製
(平成元年年度科学技術振興調整費による)



平成2年2月 海上保安庁水路部 調製
(平成元年度科学技術振興調整費による)

平成元年までの日本海上保安庁水路部の測量
陸部は国土地理院の資料による

等深線間隔...10m
等高線間隔...20m

第2図 相模湾南西部海底地形図
Fig.2 Bathymetric chart of the Southwestern part of Sagami Bay.